

メタ言語表現の「文脈展開機能」

李 婷

【キーワード】メタ言語表現 談話の展開 伝達過程の調整 「文脈展開機能」

1. はじめに

普段の言語生活を観察していると、「例のことなんですけど」、「話を戻しますと」、「話はそれだけ」のような表現があることに気づく。こうした表現はメタ言語表現であり、「談話において、自分あるいは他者の言ったこと、これから言うことに言及する表現」(西條 1999)と規定されている。日本語学習者にとって、メタ言語表現を使いこなせるのは、そう簡単なことではない。きちんと使えないと、談話の展開が思う通りにできず、聞き手に理解の負担をかけたり、人間関係を思う通りに調整できず、ぎくしゃくしたりする事態さえ生じてしまう。

本稿は、学習者の理解を助け、適切なメタ言語表現の使用を支援することに繋がる日本語教育を目指して、以下のことを究明する。まず、コミュニケーションを展開する際に、どのようなメタ言語表現が、どのように使われているのか。次に、メタ言語表現はどのような人間関係や場面、状況で使われているのか。また、メタ言語表現はどのように伝達過程を調整しているのか。分析観点として、佐久間(2002)の「文脈展開機能」を中心に用い、人間関係などの要素も取り入れる。

2. 先行研究

2.1 メタ言語表現について

日本語におけるメタ言語表現についての研究は、杉戸・塚田(1991・1993)、古別府(1993)、西條(1999)などが挙げられる。杉戸・塚田(1991・1993)は、メタ言語表現を①表現の内容とその伝達過程の調整、②人間関係の調整、③言語生活上の規範、の3種類に分け、専門的文章と公的なあいさつを対象に、動詞と文末表現に着目して類型化を行い、メタ言語表現の現れる位置を特定しようとした。しかし、例として挙げられたメタ言語表現は文脈から切り離して分析されているので、どのような文脈で使われているのかが解明されておらず、日本語学習者にとってそう簡単に理解できない恐れがある。

古別府(1993)は、研究報告場面を取り上げ、メタ言語表現の機能を「主題化」「論点化」「行動表示」「注釈」「ことわり」「接触」「儀礼」と分類した上で、日本人母語話者と留学生の使用状況を調査し、留学生の使用上の問題点を指摘している。しかし、分類はされているものの、中核となる動詞や名詞、および副詞

的な要素にのみ注目したため、メタ言語表現の使われている文脈が不十分で、どのように伝達過程や人間関係を調整しているのかについても触れられていない。

西條(1999)はディベート・シンポジウム・テレビ討論のようなやり取りのある討論場面を取り上げ、「話題の提示」「焦点化」「総括」「サブポイント提示」「補正」「表現の検索」「宣言」とメタ言語表現の機能分類をした上で、場面ごとに使用状況を調査し、メタ言語表現による談話の構造化を分析し、さらに、談話理解と談話展開における有用性を実証している。しかし、討論場面に限定したことで、より私的な場で使われているメタ言語表現に一般化できない。

2.2 「文脈展開機能」について

談話展開に関する研究の中では、佐久間(1992・1993・2002)の「文脈展開機能」が代表的であり、重要な分析観点を提供している。「文脈展開機能」とは、「文章・談話の内部にある文脈を先へと展開させて、完結し、統一ある全体を形成して伝達する働きのこと」(佐久間 1992)である。最初は、接続表現の分類方法として佐久間(1992)で提唱され、そして、佐久間・鈴木(1993)における妥当性の検証の後、佐久間(2002)による修正を経て、3類14種(【表1】参照)に定まった。また、「文脈展開形態」については、「こうした文脈展開機能は、接続表現のみによって発揮されているというわけではなく、指示表現・提題表現・叙述表現・反復表現・省略表現などの働きと相互補完しつつ実現されるもの」(佐久間 1992)であるとも論じられている。しかし、メタ言語表現も「文脈展開形態」の一つであるという主張はいまだに見当たらない。

2.3 本稿の位置づけ

先行研究を概観した上で、筆者は日本語教育の視点から、以下の4点を主張する。1点目に、メタ言語表現は「言ったこと、これから言うことに言及する表現」(西條 1999)である以上、前後の文脈と切り離して考察することができない。2点目に、メタ言語表現には伝達過程を調整しながら、人間関係も調整する場合や、人間関係を考慮しながら伝達過程を調整する場合が観察できる。そのため、「伝達過程の調整」と「人間関係の調整」を分類とするのではなく、同じメタ言語表現でも、談話展開と対人関係の両面から考察する必要がある。3点目に、先行研究で明らかになったメタ言語表現の機能を踏まえて、どのように伝達過程と人間関係を調整しているのかについて解明する必要がある。4点目に、先行研究で取り扱った特殊な場面において、メタ言語表現の多用は否定できないが、日本語教育においては、それだけでは不十分である。より多様な人間関係や場で使用されるメタ言語表現を積極的に採取して分析すべきである。

以上のことから、筆者は様々な場面を視野に、メタ言語表現を一括して、具体的な文脈を提示しながら、伝達過程と人間関係の両面から考察したいと思う。伝

達過程を捉える枠組みとして、佐久間(2002)の「文脈展開機能」を援用し、メタ言語表現も「文脈展開形態」の一つであると主張する。

3. 用例収集とメタ言語表現の定義

用例収集する際に、「伝達を目的として創造されたすべてのディスコースがデータとなる可能性がある」というメイナード(2004:25)の立場に立って、テレビドラマのシナリオを選んだ。その理由として、まず、様々な場面で使われる多様性のあるメタ言語表現を観察できる。次に、「伝達過程の調整」から考察する際に、多様な談話展開が見られ、しかもそれらの文脈が分かりやすい。また、「人間関係の調整」から考察する際に、様々な人間関係を流動的に観察でき、しかも、メタ言語表現使用者の性格や個性も分かる。最後に、学習者にとってアクセスしやすく、分かりやすい文脈が提供できる教材としての利点がある。本稿では、近年放送されたテレビドラマの中から、登場場面や人間関係のバランス、会話の自然さなどを考え、『ANEGO』(2005)・『ドラゴン桜』(2005)・『たった一つの恋』(2006)・『医龍』(2006)・『14歳の母』(2006)・『ハケンの品格』(2007)・『1ポンドの福音』(2008)・『CHANGE』(2008)・『BOSS』(2009)の9部を選定し、それぞれ(A)・(桜)・(恋)・(医)・(母)・(ハ)・(福)・(C)・(B)と略称し、資料として扱う。

メタ言語表現の定義を、「自分あるいは他者が、すでに行った・現在行っている・これから行おうとする言語行動に言及する言語表現」と規定する。「言語行動」は、「人がことばによって行う思考・表現・伝達の行動、および、これに対応する理解・受容・反応の行動」という定義(『言語学大辞典』1995:392)に従う。

4. メタ言語表現の「文脈展開機能」

上記の定義に基づき、9部のテレビドラマからメタ言語表現を695例収集し、そのうち「伝達過程の調整」に役立つものが498例である。「文脈展開機能」(佐久間2002)の定義、および本稿で収集したメタ言語表現の用例数を【表1】で示す。

【表1】「文脈展開機能」(佐久間2002)の定義と本稿で収集した用例数

| 「文脈展開機能」の3類14種 | | 定 義 | 用例数 |
|--------------------|--------------|-------------------|-----|
| A 話題開始機能 (220例) | a1 話を始める機能 | 話を最初から始める。 | 86 |
| | a2 話を再び始める機能 | 前の話とは違う話を途中から始める。 | 134 |
| B 話題継続機能 (250例) | b1 話を重ねる機能 | 前の話を繰り返し、同じ話を続ける。 | 25 |
| | b2 話を深める機能 | 前の話を言い換えて、説明する。 | 12 |
| | b3 話を進める機能 | 前の話の結果や反対の話をしする。 | 39 |
| | b4 話を促す機能 | 話が先へと進むように働きかける。 | 85 |
| | b5 話を戻す機能 | 一度それた話を再び元の話に戻す。 | 10 |
| | b6 話をささむ機能 | 前の話に関連する別の話をさし込む。 | 10 |
| | b7 話をそらす機能 | 前の話を避けて、別の話をしする。 | 16 |
| | b8 話をささざる機能 | 前の話を続けずに断ち切る。 | 32 |
| | b9 話を交える機能 | 前の話を切り上げ、別の話に変える。 | 15 |
| | b10 話をまとめる機能 | 前の話をまとめて、しめくくる。 | 6 |
| C 話題終了機能 (28例) | c1 話を終える機能 | 話を全部終える。 | 17 |
| | c2 話を一応終える機能 | 前の話を途中で切り上げる。 | 11 |

メタ言語表現はどのように「文脈展開機能」(佐久間 2002)を果たしているのかについて、収集した具体的な用例に基づきながら分析する。例文に複数のメタ言語表現があるかもしれないが、分析対象となる表現のみを棒線で示す。また、せりふの冒頭にある 1、2、3 などは、発話番号である。

4.1 話題開始機能

例(1)[野田は、部長に専門職の試験を勧められ、翌日の出勤で返事している](A)

- 1 野田 おはようございます、部長。
- 2 部長 あ、おはよう。
- 3 野田 あのう、例の話なんですけども、だめもとで挑戦してみます。宜しく願います。
- 4 部長 そう、やる気になった。後一週間しかないから、頑張って。

例(2)[首相と秘書が、野呂代表から協力を得ようと密談をしている](C)

- 1 首相 失礼します。こんなところで、すみません。
- 2 野呂 なかなか面白いところを選ばれますな。
- 3 秘書 他に、なかったもので。
- 4 首相 失礼します。あの、野呂先生、単刀直入に言います。僕に協力していただけませんか？先生は最初の補正予算案を批判されましたよね。公共工事よりも国民生活に直結した問題、例えば、小児科医の不足を何とかするべきだと。

例(1)の下線部分は、部下が上司に向かって、自分にとって利益のある勧誘への返事をする時に使ったメタ言語表現である。発話 1 と 2 はあいさつで、3 はメタ言語表現によって話題を取り上げ、相手にそれを思い出させた上で、自分の話を始め、返事をしている。下線部分は「話題の提示」(西條 1999)であり、話を始めるきっかけを作る際によく使われ、「話題開始機能」を果たすことができる。

例(2)の下線部分は、着任したばかりの若い首相が、年上でベテランの政治家である相手に向かって、当然性の低い依頼をする時に使ったメタ言語表現である。発話 1 から 3 は面会の場所を巡る話であるが、本当は首相が野呂を呼び出した用件とは無関係で、実質的な話題とは言えないだろう。発話 4 でメタ言語表現によって、前と違う話を途中から始め、「話を再び始める機能」となる。下線部分は「宣言」(西條 1999)であり、「話題開始機能」を果たすことができる。

ほかに「話題開始機能」の用例として、「今日は皆さんに大事なお知らせがあります」(桜)のような「話題の提示」(西條 1999)や、「ご報告します」(A)のような「宣言」(西條 1999)や、「大変申し上げにくいのですが」(福)のような「補正」(西條 1999)などが挙げられる。いきなり話を始めるのは唐突であり、相手の談話理解に負担をかけるだけでなく、時々失礼な印象を与えることもある。従って、メタ言語表現によって、話題を提示したり、これから行う言語行動を予告したり、失礼かもしれないと断っておいたりして、話を始めるのは、相手を意識しての談話展開になる。

4.2 話題継続機能

4.2.1 話を重ねる機能

例(3) [進学クラスを担当する桜木は、学生の水野に東大受験を勧めている] (桜)

- 1 桜木 お前、東大に行かないか。
- 2 水野 まだ言ってる。はあ、私が行くわけないでしょ。
- 3 桜木 じゃ、聞き方を変えよう。東大に行きたくないか。
- 4 水野 ないわよ。何で私が東大行かなきゃならないの？

例(3)の下線部分は、教員が生徒に東大へ行くようにと、当該生徒にとってハードルの高い勧誘をする時に使ったメタ言語表現である。発話2は発話1の勧誘に対する断りである。しかし、桜木は諦めずに、発話3の下線部分によって、違う聞き方で、ほぼ同様な質問を重ねている。ほかに「話を重ねる」用例として、「繰り返します」(B)のような「宣言」(西條 1999)や、「美容師になるんじゃないかったっけ。なんか、言ってたじゃん。高校出て、専門学校行って、私美容師になるんだって。」(恋)のような「焦点化」(西條 1999)なども挙げられる。話を重ねるのは、何かを強調したり、相手への働きかけを強化したりする効果がある。さらに、メタ言語表現であえて話を重ねるということを明示することで、相手に聞く姿勢を持たせ、話を重ねることの効果をより一層強めることができる。

4.2.2 話を深める機能

例(4) [産婦人科の医者が14歳の妊婦につわりについて説明している] (母)

- 1 未希 本当はときどき気持ち悪いことが。
- 2 医者 あ、それなら大丈夫。聞いたことあるでしょう。つわりっていうの。(未希の反応を見て) 分かりやすく言えば、赤ちゃんからのサインね。

例(4)の下線部分は、医者が知識のない若い妊婦に分かりやすく説明する時に使ったメタ言語表現である。発話2で「つわり」という相手にとって分からないだろう用語が出てきたため、医者はさらに話を先に進めることができず、メタ言語表現によって、簡単で分かりやすいことばに言い換え、話を深めている。ほかに「話を深める」用例として、「簡単に言えば」(B)、「小学校で言えば」(C)のような「宣言」(西條 1999)などもある。話を深めるのは、基本的に当該話題についての情報や知識を持っている人が、持っていない人に向かって行う行為である。メタ言語表現の使用は、その情報や知識の提供を効果的なものにすることができる。

4.2.3 話を進める機能

例(5) [正社員の東海林は、派遣社員の春子を自分の企画に誘っている] (ハ)

- 1 東海林 俺とあんたってさ、180度回転すると、意見が合うと思うんだよな。一度俺と組んでみないか？

- 2 春 子 は？
- 3 東海林 企画コンペ勝ち抜けたら、部長に掛け合って、君の時給上げてもらうから。一ヶ月前から温めてた企画なんだよ。この企画、君が参加しないと。
- 4 春 子 説明が長すぎます。
- 5 東海林 分かった。じゃあ、言うから。タイトルは、ジャーン。

本稿では、「話を進める機能」を「前の話を引き受け、一歩先へと発展させること」とメタ言語表現用に再定義¹した。例(5)の下線部分は、正社員の主任が、有能な派遣社員の力を借りるために、自分のチームに誘おうと、しぶしぶと話を進める時に使ったメタ言語表現である。発話1と発話3で迂回しながら2回も努力したが、いずれも失敗してしまった。発話4で催促され、発話5のメタ言語表現によってやっと企画のタイトルを持ち出し、話題を一歩先へと進めたわけである。ほかに「話を進める」用例として、「途中省略して、結論だけ聞くんだけど」(ハ)のような「宣言」(西條 1999)や、「今日、大事なことを二つ話します。……まず、一つ目……。では、二つ目……」(母)のような「サブポイント提示」(西條 1999)、「そのことについて、皆さんにご報告があります」(C)のような「話題の提示」(西條 1999)などが挙げられる。話を進めるのは、話の主導権と深くかかわっており、場や人間関係、用件などの要素を無視するわけにはいかない。

4.2.4 話をうながす機能

例(6)[着任したばかりの大澤が張り切っているのに、上司に注意されている](B)

- 1 部長 着任早々で張り切っているのは分かるんだ。いいんだよ、無理しなくて。
- 2 大澤 と言いますと？
- 3 部長 特別犯罪対策室は、つまり、対外的なものだ。君はマスコミの対応の仕方でも勉強してりゃいいんだよ。

例(6)の下線部分は、部下が上司に向かって、はっきりした話を言わせようとする時に、使ったメタ言語表現である。刑事部長は発話1で遠まわしに話していたが、大澤はそれが何を意味しているのか分からず、発話2のメタ言語表現によって、その話を説明するようにと促している。ほかに「話を促す」用例として、「何かご質問ですか」(A)、「あいさつはいいから、要件を話してもらいます」(母)、「二つ目は何ですか」(C)、「お話の続きを」(C)などが挙げられるが、いずれも先行研究の分類にはなかった用例である。話を促すのは、相手から情報や知識を得ようとする側の行為であり、相手との人間関係などの要素によって、メタ言語表現の丁寧度の選択が行われている。特に、立場が上の相手に向かって、その話

¹ 佐久間(2002)では、「話を進める機能」は「前の話の結果や反対の話をする」と定義されているが、本稿で収集した用例を見る限りでは、結果や反対の話より、前の話を受けて、それを更に先へと発展させるのが多いようである。

を促そうとする際に、丁寧なメタ言語表現を使用した方がよいだろう。

4.2.5 話を戻す機能

例(7) [桜木が学校の再建案を打ち出し、教職員に反対されている] (桜)

- 1 井野 じゃあ、あなたは説明できるんですか。龍山高校の魅力とは何なのか。
- 2 桜木 東大合格者 100 名を出す。
- 3 井野 ですから、そういう数字じゃなくて。
- 4 桜木 数字は競争力の証だ。教育もビジネスだ。大体そんなことばかり言ってるから、この学校潰れてしまうんだよ。いいですか、話を元に戻しますよ。特別進学クラスの担任を引き受けてくださる方、いらっしゃいますか。特別進学クラスの担任を引き受けてくださる方は優先的に採用しますよ。

例(7)の下線部分は、責任者が、自分に反対する非責任者の相手に向かって、遮られた話を元に戻そうとする時に使ったメタ言語表現である。発話 1 から 3 において、桜木は話の途中で、教員の井野に反対され、いろいろ揉めている中、話がずれてしまった。そこで、桜木は発話 4 のメタ言語表現によって、元の話題に戻そうという言語行動を行った。ほかに「話を戻す」用例として、「でね、話を戻しますが」(福)のように、一時それた話を再び取り上げ、元の話に戻す場合も、「院長様、話ずれております」(福)のように、第三者として目上に対して話の脱線を指摘するだけの場合も、「少し論点がずれてしまったので、改めて増税についてお聞きしたいと思います」(C)のように、第三者であるが、進行役として、話がそれたことを指摘した上で、戻そうとする話題を再び提示し、戻す行為を宣言する場合もある。話を戻すのは、かなり会話の主導権をとって、話の成り行きをコントロールする行為である。自分がその主導権を握ってよいかどうか、話を戻すのが相手にとって望ましいかどうかなどを考慮しつつ、人間関係や要件、自分が当該会話における役割や資格などを見極めて、メタ言語表現を選択する必要がある。

4.2.6 話をささむ機能

例(8) [野田が不倫で苦しみを感じ、経験者の河田に話を聞いている] (A)

- 1 野田 お休みの日にすみません。こんなところに呼び出しちゃったりして。
- 2 河田 沢木さんのことでしょう。
- 3 野田 はい、どうしても確かめたいことがあって、
- 4 河田 ちょっと待って、私にも質問させて。
- 5 野田 はい。
- 6 河田 野田さんは沢木さんと別れたいんですか。それとも一緒にいたいんですか。
- 7 野田 それがよく分からないんです。

例(8)の下線部分は、相談に乗る側が、一回しか面識のない相談者に向かって、相手の話が始まる前に、確認しておこうとする時に使ったメタ言語表現である。

野田は発話 1 で相手を呼び出したことに対してまずお詫びをし、河田は発話 2 で用件の内容を確認した。野田は発話 3 で話題を提示し、話を始めようとしている。しかし、河田は本題に入る前に、野田の気持ちを知っておこうとして、発話 4 のメタ言語表現によって、発話権を奪って、自分の質問をはさんだわけである。ほかに「話をささむ」用例として、「あのさ、あんたにお礼を言わなきゃと思って、いや、その前に、謝らなきゃな」(ハ)のような「宣言」(西條 1999)で、自分の話の途中で話をささむ場合も、「その前にね、今日はいろいろ面白い話がある」(B)のような「話題の提示」(西條 1999)で、相手の話をささぎって自分の話をささむ場合も、「お話中すみませんが」(恋)、「あの、私の方から、条件を説明させていただきます」(ハ)のような「補正」(西條 1999)や「宣言」(西條 1999)で、他人同士の会話に割りこんで、自分の話をささむ場合もある。話を挟むのは、会話の本来の流れを微調整する行為である。自分の話なのか、相手の話なのか、他人同士の会話なのか、そして、いきなり別の話を挟むか、それとも、メタ言語表現などで断ってから挟むか、さらに、挟むタイミングなどについては、場や状況の雰囲気、人間関係、話題によって、総合的に判断する必要がある。

4.2.7 話をそらす機能

例 (9) [医者に加藤は、業績のために症例の悪い患者に手術しないつもりでいる] (医)

- 1 加藤 ご挨拶遅れて、申し訳ございません。奈良橋婦長。
- 2 婦長 そんな。もう、婦長じゃないんですからね。改まらないでくださいね、加藤先生。ただでさえ、私、一緒にいた人たちに迷惑をかけて、申し訳ないと思うんですから。
- 3 加藤 私の方こそ、昔は奈良橋婦長に随分お世話になって。
- 4 婦長 そうそう、助教授になったんですって？
- 5 加藤 はい。
- 6 婦長 あなたなら、なれると思ったわ。人一倍努力家で、患者思いで、加藤先生に任せれば、私も大丈夫ね。
- 7 加藤 あのう、治療方針なんですが、
- 8 婦長 パチスタ手術宜しく願います。先生に任せてだめなら、私もう諦めがつくわ。

例 (9) の下線部分は、若い医者が、昔の恩人である定年退職した婦長に向かって、相手が重病で手術を望んでいるにもかかわらず、手術しないことを告げようとする時に使ったメタ言語表現である。発話 1 から 3 は昔の話で、発話 4 と 5 は加藤の昇進という話になり、発話 6 で奈良橋は手術の話へと持っていこうとしているのが分かる。しかし、加藤は奈良橋を切り捨て、手術しないつもりでいたので、発話 7 のメタ言語表現によって、手術の話から逃げようとしている。ただ、昔の恩人になかなか言い出すことができず、結局、発話 8 で手術を頼まれてしまうのである。ほかに「話をそらす」用例として、「泊まるか泊まらないかを置いとい

てさ」(恋)、「たぬきうどん、置いといて」(C)、「それよりはさ」(B)などがあり、先行研究の分類にはない用例である。「話をそらす」というのは、相手の持つていこうとする話から逃げたり、相手の望んでいる話の成り行きを変えたりする行為である。イニシアティブを取ってよい時は、相手から振ってきた話を堂々と受けけないで、そらしてもよいが、そうでない時は、相手に気づかせないようにこっそりそらす工夫が必要となってくる。

4.2.8 話をさえぎる機能

例(10) [母親が娘を妊娠させた桐野の安否を心配し、夫に聞いている] (母)

- 1 妻 ねえ、桐野さんの行方、まだ分からない？
- 2 夫 みたいだなあ。
- 3 妻 そう。
- 4 夫 もうその話はよそう。俺たちに関係ないし、何ができるというわけでもない。

例(10)の下線部分は、夫がづらい話題を持ち出した妻に向かって、その話を途中からさえぎる時に使ったメタ言語表現である。妻は発話1で、桐野の行方という話題を持ち出し、夫は発話2で知っている範囲での答えをした。妻は発話3でさらに何かを言い出そうとしているところで、夫はこれ以上その話をしたくないという姿勢を示し、発話4の下線部分によって、妻の話をさえぎっている。ほかに「話をさえぎる」用例として、「その話はまた今度」(A)や「もう昼休みですけど、まだその話を続ける？」(A)、「お話はそれだけでしょか」(ハ)などがあり、先行研究の分類にはなかった用例である。「話をさえぎる」というのは、会話の進行中で相手の話を中断させることであり、下手すると相手に不愉快を与えることもある。しかし、人間関係や資格、会話の状況や話題などによって、それが許される場合がある。これらの要素はメタ言語表現の選択にも影響を与える。

4.2.9 話を変える機能

例(11) [刑事の大澤が犯人からかかってきた電話に出て、話を聞いている] (B)

- 1 大澤 ね、あの爆弾、あなたが作ったとしたら、手先器用ね。
- 2 犯人 まあ、ね。
- 3 大澤 それに、神経質。
- 4 犯人 何を聞き出したいの？プロファイリングか。
- 5 大澤 分かった。じゃあ、交渉の話をしましょう。こちらは、幹部釈放のめどは立った。そちらは？総監と野立参事官の解放準備はいい？

例(11)の下線部分は、刑事がまだ捕まえておらず、しかも人質を持っている犯人に向かって、プロファイリングに失敗して、交渉の話に変える時に使ったメタ言語表現である。大澤は発話1と3で犯人のプロファイリングをしようとしているが、見破られて失敗してしまった。そこで、プロファイリングをあきらめ、発

話 5 の下線部分によって、交渉へと話を変えている。ほかに「話を変える」用例として、「僕も一つ質問があるんだけど、いいかなあ」(恋)、「それから、東海林のことなんだけど」(ハ)のような「話題の提示」(西條 1999)が挙げられる。「話を変える」というのは、自分の意思による行為であるため、合意して、または、従ってもらえる相手であれば、特に問題ないが、そうでない相手だと機嫌を損ねかねないし、変えない方がよい話や変えてはいけな話となると、なおさらである。メタ言語表現の使用と選択も、これらの要素を考慮しなければならない。

4.2.10 話をまとめる機能

例(12)[娘の中絶のために病院に向かい、父親が運転しながら話している](母)

- 1 父親 お父さん涙が出てきちゃったんだ。娘が生まれた日に、こんなに気持ちのいい天気にももらえるなんて、俺の人生も捨てたもんじゃないなあって、ヤッホーって、やったぜ、バービーって。
- 2 母親 ちょっと、古いよ。(沈黙したままの娘に向かって)ねえ。
- 3 父親 つまり、何が言いたいかというと、お父さんもお母さんも、お前が生まれた時から、ずっとお前の味方だから。この、いろいろ厳しいことを言ったけど、心配するなってことだ。

例(12)の下線部分は、父親が娘に向かって、遠まわしで言った励ましの話を伝えるようにまとめる時に、使ったメタ言語表現である。発話1で長々と話をしていたが、話の意図が妻と娘に伝わらなかった。そこで、発話3の下線部分によって、話したいことの主旨を分かりやすくまとめている。ほかに「話をまとめる」用例として、「一言で言ってみれば」(福)や「とにかく、一言でまとめると」(ハ)、「結論から言うと」(A)のような「宣言」(西條 1999)などが挙げられる。「話をまとめる」というのは、基本的に話してきたことを相手にとって分かりやすく、印象深く、覚えやすくするために行われる相手を意識した行為である。メタ言語表現の使用は、これからまとめるという相手にとって有用かもしれない行為の予告であり、注意喚起をすることで、後ろのまとめと相乗効果を果たすことができる。

4.3 話題終了機能

例(13)[畑中がシスターアンジェラに告白をしている](福)

- 1 アンジェラ 畑中さん、私に御用というのは？
- 2 畑中 あ、シスターアンジェラ、次の試合は決まりました。次の試合で勝ったら、俺と付き合ってください。言いたいことはそれだけなんで、それじゃ、失礼しました。

例(14)[甲君が初デートで裕子の気持ちを確認しようとしている](恋)

- 1 甲君 さあ、俺のことが嫌いなら、はっきり嫌いって言って。
- 2 裕子 嫌い、と言い切れない。
- 3 甲君 はあ？

- 4 裕子 あの花、いつ渡すつもり？だんだん枯れてきてるんだけど。
5 甲君 うん、やっぱだめだね、俺は。何か花ってキャラじゃないなと思っちゃって。
6 裕子 そういうとこ、嫌いになりきれないのよ。ねえ、花ちょうだい。もらうよ。
7 甲君 もういいよ。枯れてきてるし。よし、このお話はおしまい。ねえ、今日ドライブを楽しもう。じゃあ、富士五湖を回って帰るよ。

例(13)のメタ言語表現は素直で正直な若いボクサーが、好きなシスターに向かって、長話が許されない状況において告白する時に使ったメタ言語表現である。発話1で話を促された畑中は、発話2で用件を話ただけで、下線部分で話を切り上げた。人物の退場に伴って、会話も完了したため、「話を終える機能」を果たしている。例(14)の下線部分は、男性が好きな女性に向かって、初デートに相応しくない気まずい話を持ち出した後、その話を終わらせる時に使ったメタ言語表現である。甲君は発話1で疑問を投げかけたが、発話2であいまいな答えしかもらえなかった。発話4で、裕子は花を渡すようにと甲君に要求し、話をずらそうとしていた。しかし、甲君は結局、花を渡す勇気もなく、発話7の下線部分で、自ら持ち出した愉快でない当面の話に終止符を打ったわけである。その後も、他の話が続いたため、「話を一応終える機能」を果たしていることが分かる。

ほかに「話題終了機能」の用例として、「僕の話は以上です」(C)、「ということなんで」(恋)、「交渉成立」(医)、「話はそれだけ」(医)などが挙げられる。話を終えるのは、タイミングや会話の進み具合、雰囲気などによって、会話をする双方の認識、もしくは、イニシアティブを持っている人の判断で行われる行為である。時々、会話参加者の一方は話が終わったと思っている、他方は終わっているかどうかと分からないこともある。メタ言語表現の使用は、その終わりをはっきり告げることで、会話参加者同士で認識を共有することができる。

5. まとめ

本稿の考察を通して、以下のようなことが明らかになった。

1) メタ言語表現は3類14種のすべての「文脈展開機能」を果たすことができ、「文脈展開形態」の一つとして、位置づけられるのではないかと思う。もちろん、どこまでそれらの機能を果たせるのかは、絶対的ではなく、文脈による部分が大きい。例えば、4.2.5の「院長様、話ずれております」、例(8)の「どうしても確かめたいことがあって」、例(9)の「治療方針なんですが」は、それぞれ「話を戻す」「話を始める」「話をそらす」機能を果たそうとしたが、成功できなかった。

2) 様々な場面・人間関係・話題・言語行動のあり得るテレビドラマから、「話を促す」、「話をそらす」、「話をさえぎる」など、先行研究で見られなかった用例を収集でき、メタ言語表現の多様性を示すことができた。

3) 「文脈展開機能」という観点からメタ言語表現を捉えることで、先行研究で同じ種類のものでも、文脈によって実は違う働きをしていることが分かった。例

えば、「今日は言わせてもらいます」(ハ)、「もう一度言います」(桜)、「私の方から、条件を説明させていただきます」(ハ)のいずれも「宣言」(西條 1999)であるが、それぞれ話を始めたり、かさねたり、挟んだりする際に使われている。

4) 伝達過程を調整するメタ言語表現でも、人間関係などの要素が大きくかかわっている。人間関係については、ただ上下・親疎・ウチソトなどに抽象化するのではなく、職業や身分、資格、立場、会話の主導権などと具体的に記述したものである。会話の文脈を展開させるのは、会話の参加態度や主導権の現われであり、相手との人間関係や場、話題などを考えざるをえない。とくに、相手の話を遮ったり、促したり、第三者として話を挟んだり、戻したりするのは、相手発話への働きであり、人間関係だけでなく、場面や状況、用件などとも深く関わっている。本研究で挙げられた用例も、こうした場と人間関係だからこそ使えるメタ言語表現である。

6. 今後の課題

本稿では、紙幅のためメタ言語表現のみに焦点を当てたが、さらに、その周辺に注目すると、他の「文脈展開形態」、とりわけ、フィラーや接続表現、指示表現に深くかかわっていることが分かる。それらの関連諸表現との共起関係、どのように相互補完しつつ「文脈展開機能」を果たしているのかというメカニズムの解明も必要である。つぎに、メタ言語表現は日常生活でどのように使われ、使用意識と受け止め方はどうなっているのかについても、別途調査する必要がある。また、日本語学習者がメタ言語表現を過不足なく活用できるようになるために、教師はどのような支援をすればよいのかというのも今後の課題となるだろう。

【参考文献】

- 亀井孝・千野栄一・河野六郎(1995)『言語学大辞典』第六巻術語編[大型本]三省堂
西條美紀(1999)『談話におけるメタ言語の役割』風間書房
佐久間まゆみ(1992)「接続表現の文脈展開機能」『日本女子大学紀要』pp. 9-22 日本女子大学
佐久間まゆみ・鈴木香子(1993)「女子学生の日常談話の接続表現」『国文目白』32 pp. 31-48
日本女子大学国語国文学会
佐久間まゆみ(2002)「接続詞・指示詞と文連鎖」『複文と談話』pp. 119-189 岩波書店
杉戸清樹・塚田実知代(1991)「言語行動を説明する言語表現—専門的文章の場合—」『国立国語研究所報告 103, 研究報告集 12』pp. 131-164 国立国語研究所
———(1993)「言語行動を説明する言語表現—公的なあいさつの場合—」『国立国語研究所報告 105, 研究報告集 14』pp. 31-79 国立国語研究所
古別府ひづる(1993)「専門的内容における口頭発表のメタ言語表現」『表現研究』第 59 号 pp. 12-22 表現学会
メイナード, 泉子・K(2004)『談話言語学』くろしお出版
- り てい 早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程 -